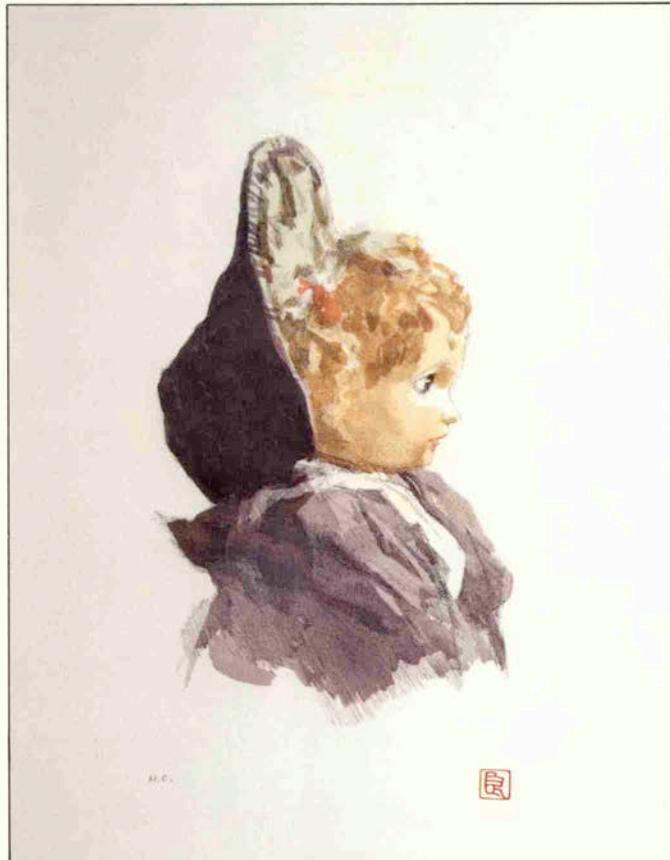


THE  1985 3
KOBECO

MARCH No. 287

月刊神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可
昭和60年3月1日印刷 通巻287号
昭和60年3月1日発行 毎月1回1日発行



ベニヤさんちか店が新しい場所に生まれ変わります。

●1985年3月30日(土)新店舗オープン!

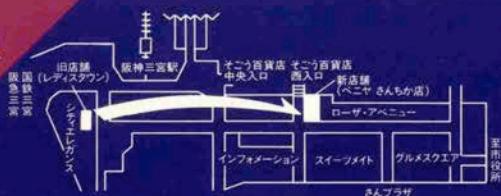
santica

目にみてプラグシタ

プラス・ショップ、
そんな形容が似つかわいい
ファションナブルでセジヌスな
人間活動を盛りあげ、
感性をきわめてる、
新しい「ベニヤさんちか店」
生まれ変わるさんちかを
それこそ代表するよな店づくり、
ご期待ください。



リ・ローン
RE-BORN ★ 華麗なる変身★



BENIYA KOBE·OSAKA·TOKYO

さんちか店／神戸市中央区三宮町1丁目10-1 さんちかローザアベニュー TEL.078(321)2678



視線をあやつるチカラ。

負けず、劣らず、女とジュエリー。

田崎真珠

ピアニスト

神戸から 白井満智子のism

ismの女性アーティスト訪問 10



ふとしたきっかけからスペイン音楽に魅せられ、ふた夏続けてスペインの音楽講習会へ参加した。その成果を3月20日“スペインの夜”と題して大阪府立労働センター大ホールで披露する。桐朋学園のピアノ科を卒業後も単身渡米してボストンのニューイングランド音楽院大学院で2年間学んだ。久々のリサイタルで練習に余念がない。白と赤の組み合わせが春らしく新鮮な装いです。



Head office: 10-7, 2-Chome, Ninomiya-cho, Chuo-ku, Kobe, 651, Japan TEL 078-222-3641
Marketing room: 8-18, 2-Chome, Ninomiya-cho, Chuo-ku, Kobe, 651, Japan TEL 078-222-1331

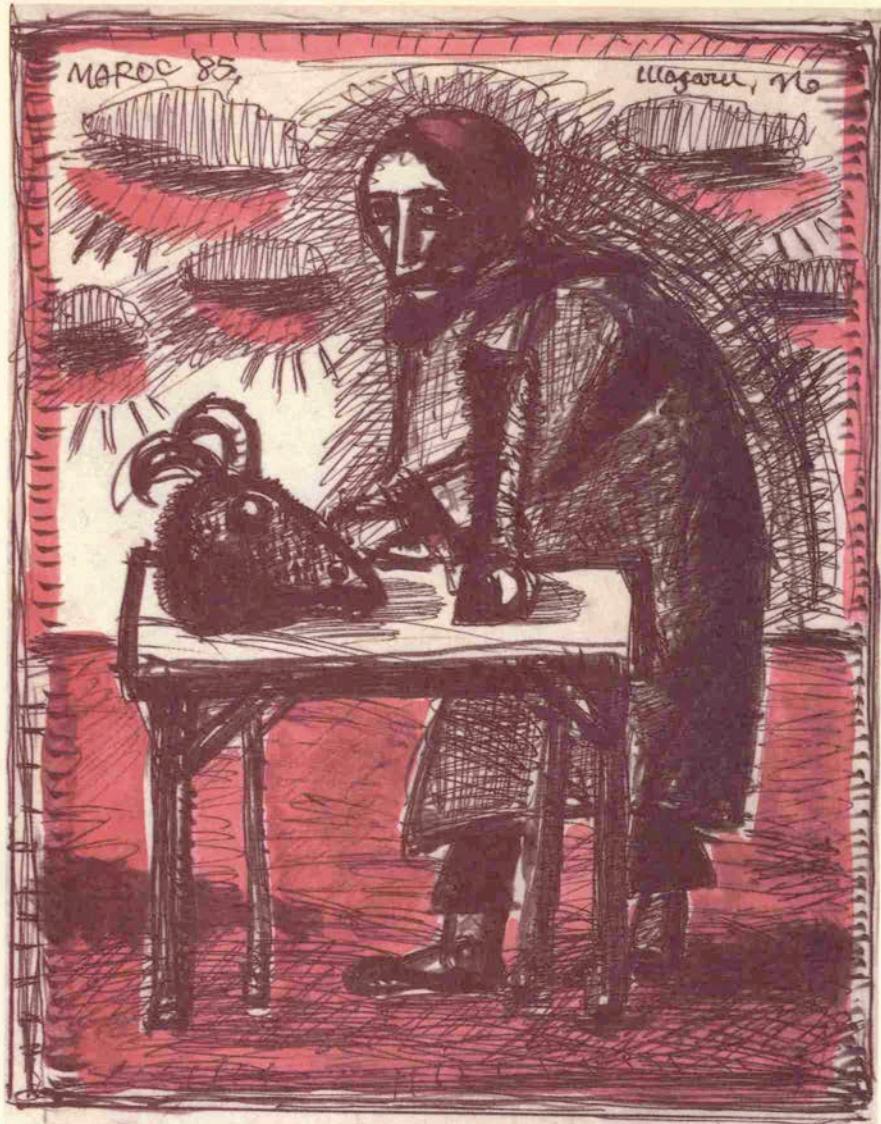
※写真のブラウスを抽選で3名様にプレゼントいたします。ご希望の方は葉書に住所・氏名・年齢・職業を記名の上記までご応募ください。「85年3月25日終切
〒650 神戸市中央区東町113-1
大神ビル9F 月刊神戸っ子
「イズム」プレゼント係

● Second Cover

世界の物売り(3)モロッコ

羊の頭と牛の足を売る男

中西 勝(二紀念)

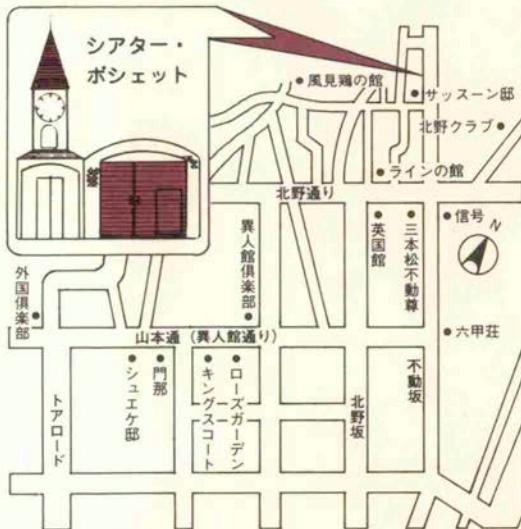


実験交流サロン

シアター・ポシェット

3月の公演

- 3日(日) 劇団カミング「ハムレット'85」
14:00, 17:00
7, 8, 9, 10日 浜崎満舞台「審判」
18:30(7, 8, 9日) 14:30(10日)
21日(木) グループ12コンサート
14:00~16:00
24日(日) フランス映画祭 14:00



★シアター利用のご案内

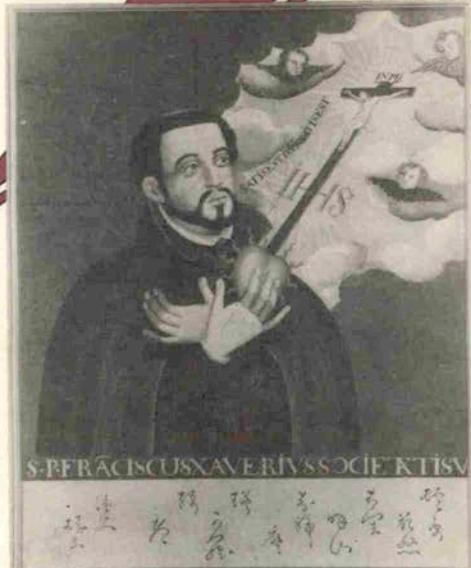
- 曜日、時間 / 土、日曜日（通常）AM10:00～PM8:00
 - 費用 / ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
 - 付帯設備 / グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー、テーブレコーダー、マイク、映写機等
 - お申し込み、お問い合わせ

そごう前センター街東南角、さんちか入口

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F
佐本小児歯科 佐本進 ☎331-6302~3

南蛮美術名品展

3/16(土)~4/7(日)



絢爛豪華な桃山美術の華。

ポルトガル・スペイン文化の影響を受け日本ではじめて洋風画が描かれた。

1600年前後の南蛮ファッションの流行を示す名品の数々。

(出展作品) 聖フランシスコ・ザヴィエル像
南蛮屏風、泰西王侯騎馬図(重文)他。

■開館時間 10AM~5PM ■休館日 每週月曜日、3/22

■入館料 一般200円、高大生150円、小中生100円

第六章 亂世的抗爭

神戸市立博物館



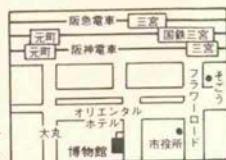
神戸市中央区京町24番地

☎ (078) 391—0035

■国鉄「三ノ宮」「元町」から南へ徒歩約10分

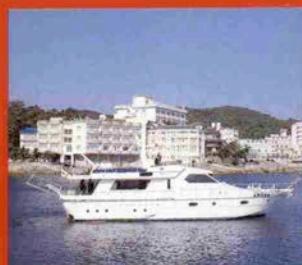
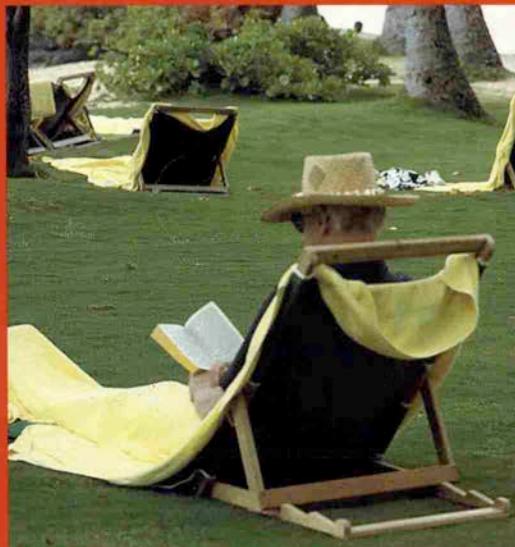
■阪急「三宮」、阪神「三宮」、または「元町」から

商丘精英约10分



ファーストクラスの休日…

エグゼクティブが 翼を休めるために



光あふれる海と透きとおる空の群青の中に一羽の白いカモメを見つける……。

太陽と海のウェーブを、こころよく胸の中に感じる。何かが、眠うつような気分……。

ファーストクラスの休日に抱かれた南の海のブレックファスト。

サントビアマリーナ洲本ハーバービュー通り、白亜の麗しいホテル「ロイヤルグレースホテル淡路島」が4月21日、誕生します。

株式会社
MINAMI 南インターナショナル
MINAMI INTERNATIONAL CO., LTD.

神戸市中央区浜辺通5丁目1-14

TEL. 078(232)1301

ファンタスティックな春の宵に…

Tajima
宝飾店 タジマ

元町2丁目 TEL 331-5761代表

●第14回ブルー・メール賞受賞者 文学部門

「詩人の魂」を読み取る

松尾美恵子

（譯論）カメラ・松原卓也

おかげば頭に大きな目。小柄。あどけなさが残る。昨年、「ロートレアモンの論理」（静地社刊）が刊行された。旧作に『ランボー』（ある地獄の季節）構成論（牧神社刊）。「もともとランボーが好きだつたんです。高校時代、授業中に机の下で本を開けて笑）。しかし「文学少女」と呼ばれることは嫌う。評論家の寺田透氏によつて雑誌『文学』にランボーノートの一部が紹介されたのは23歳のとき。「詩の解釈は読み手の勝手ではない。書き手には、何かを伝えたい止むに止まれぬ衝動があるはず。それは理解可能なものだと思います」。高校時代からの「直感」だ。目下、フランスの歴史家、エドガー・キネの『新しき精神』（一八七五年刊）の翻訳に取り組む。これを読むとその当時の人たちの世界觀がよく分ります。ランボーやロートレアモンが読んだであろう書物を、一流、二流を問わず読みたいんです。当時の世界像を再現し、詩人への「理解」へ近づくという一つの方針論を確立しつつある。昭和24年3月、明石市生まれ。兵庫県立明石高校卒業。「たうろす」同人。西宮市在住。現在、大阪にある夫君・一廣氏の企画オフィスでコピーライターとしても活躍中。

（フライロードにて）



歌つている時が最高に幸せ！——安芸栄子

（声楽）カメラ・米田定蔵

歌が好きで好きでしようがない、歌つている時が最高に幸せ。体力が続く限り歌い続けたい、という安芸さん。

今回のブルーメール賞の受賞対象となつたのは、昨年10月25日の「こうもり」の舞台である。

「この舞台は、12月に亡くなつた父が見てくれた最後の舞台なんです。今回の受賞は自分から挑戦するコンクールでの入賞ではなく、舞台を見て選んでいたいたい、思いがけない賞なので、すごく嬉しいですね。父も喜んでくれると思う」と、本当に嬉しそうに受賞の喜びを語る。譜面（スコア）をじっと見ていると、自分の演じる人物の考え方、性格、人生までがみえてくる、平面の譜面（スコア）から作者の表現したかつた人物を読みとつて、立体的に舞台の上に浮びあがらせていく。むずかしさはあるが、自分が自分でなくなる——人の何倍もの人生を生きることができるのがオペラの魅力だという。

'74年なにわ芸術祭新人奨励賞、'75年日伊コンクールのミラノ大賞、'78年ロサンゼルス日系交響楽団国際コンクール第一位、とその活躍ぶりはめざましい。今日も、神戸の街並みが一望のレッスン室で、6月の舞台「コジ・ファン・ツウッテ」の練習が続く……。昭和27年1月生まれ・大阪音楽大学大学院卒・長田区在住。（五位ノ池・レッスン室にて）



●第14回ブルー・メール賞受賞者

美術部門

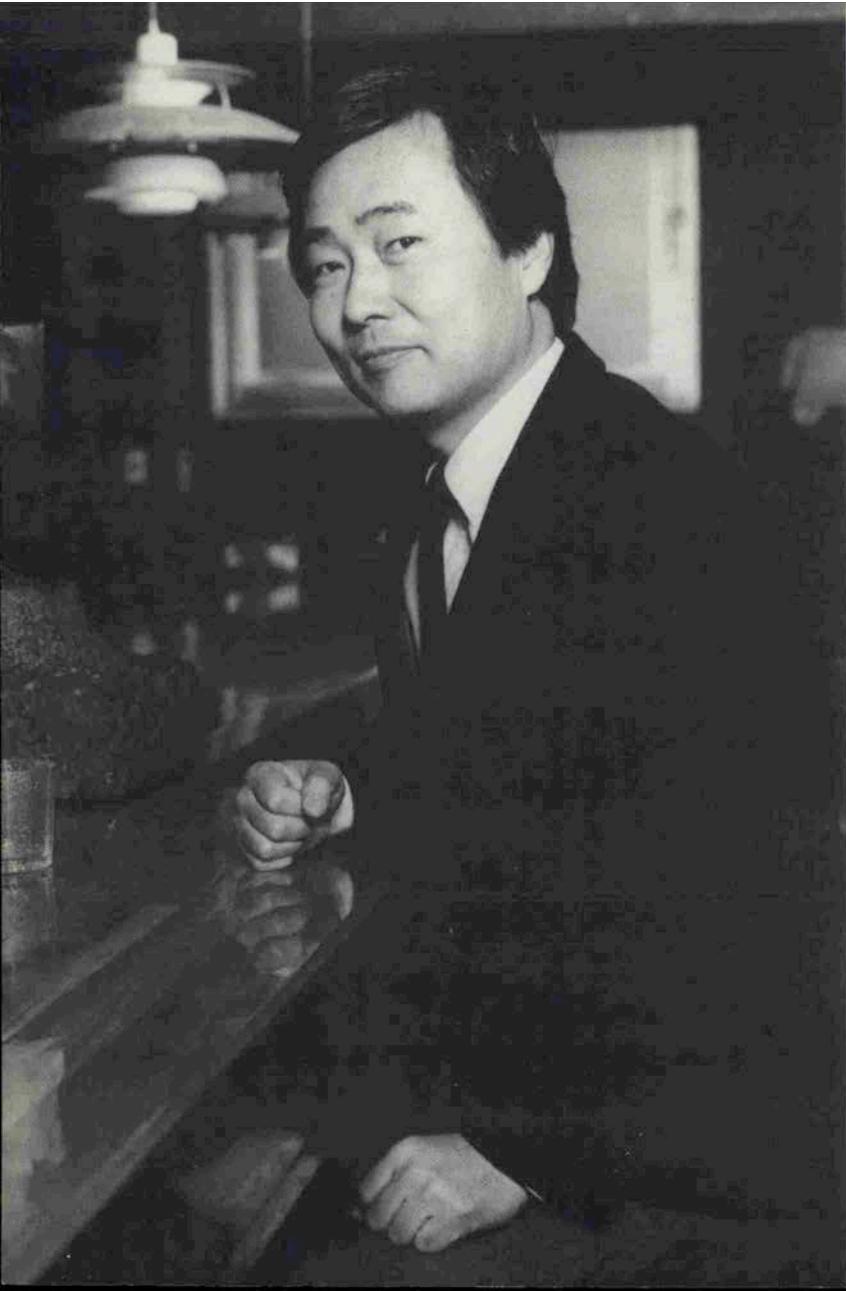
建築は芸術なんだ

武田則明

(建築家) カメラ・松原卓也

「街並みが美しくなれば当然ファッショニも引き立つてくるんですよ。芸術的街並を作りたいですね」建築に限りなくART感覚を求める武田則明氏だが、中学生の頃は、野口英世に憧れて、医者を目指していた。ところが、もともと好きだった絵画への興味を捨てきれないこと、建築に対する興味が湧いてきたことが合いまって現在の職を選択した。神戸大学工学部建築学科卒業後、山下寿郎設計事務所に入社し、霞ヶ関三井ビルの設計室に転勤。当ビルの設計に従事し、日本建築史の歴史的瞬間に立ち合つた。その後、札幌転勤を経て、神戸へ戻り、水谷穎介氏主宰の都市・計画・設計研究所(UR)にころがりこむ。3年間に神戸ポートアイランドの基本計画。大州の中心市街地区再開発基本構想等の仕事に携わる。'73年、オイルショックで仕事が減ったのを機会に独立を決意。現在に至る。独立後の初仕事は「でっさん」(李良平氏が施主)である。

昨年、12月1日から5日間、神戸元町海文堂ギャラリーで、独立10年を記念して、10年間に建てた建築物の模型と平面図を展示し、初の個展を開いた。この個展のユニークな内容が今回の受賞のきっかけとなつた。「美術部門で受賞できたことは、なによりもうれしいです」これからもより美しい街並み作りに取り組んでもらいたい。(思い出のでっさんにて)



神戸を撮る若き感覚――

白羽弥仁 (学生監督) カメラ・米田 定蔵

“とにかく、カッコよく撮りたかったんです”と開口一番。“男は強い方がいいし、女はきれいな方がいい”そういう言葉が、気負いも街いもなく出てくる。

学生監督白羽弥仁の撮った「セビアタウン」――神戸で育つた人間の眼が捉えた時間と空間である。彼の頭に焼きついている神戸の一番美しい風景は、沈みゆく太陽に照らされて、だんだんオレンジ色に染まつていく港だと言う。

無意識の内に見ていた風景が、映画の中で、そのまま淡淡と描き出される。彼自身の思い入れ、こだわりが、嫌味なく見事に消化され、清々しささえ感じられる。それは、外側から見て切り取つたものではなく、街の姿があるがままの形で流れているからであろう。

“出来、不出来は別にして、映画を撮るということは素晴らしいことだと思う”と語る彼。神戸を舞台にした第2作が、楽しみである。スタッフと喧々諤々の思い出のラストシーン、オリエンタルホテル前での撮影となつた。

滝川高校出身、日大芸術部在学中。昭和39年生まれの20歳。



○第14回ブルー・メール賞受賞者 ファッション部門

神戸家具の未来を担つて——神戸市家具青年部会

カメラ・松原卓也

兵庫県家具組合連合会の下部組織として、また当時の神戸市内における家具屋の青年部ということで、昭和39年、神戸市家具青年部会は結成された。結成当初は、初代会長永田良一郎氏(永田良介商店社長)が、木工団地の開設を行中だった関係もあり、名古屋の三好木工団地見学へいくなど、同業者同志の親睦を深める活動が主力におかれていった。現在会員は、19名。全員が、兵庫県家具組合連合会所属者の一世たちである(40歳定期年制)。七代目会長としては、藤井光造氏(株)クレアシオンフジイ社長)が大役を果たしている。過去20年間では、昭和39年の名古屋木工団地見学をはじめ、45年の神戸家具講習会と各講座、46年の約800名が参加した神戸家具合同運動会、47年の神戸家具新作発表展、54年の神戸市と共催になつた個展、58年の第1回神戸洋家具フェア、59年の20周年記念誌発行などがあり、これらすべてのチームワークのとれた若々しい活動が、受賞のきっかけとなつた。「ファン都市神戸」をめざす神戸市は、生活文化(トータルファッショング)としての方向性を持っているが、そんな中で神戸市家具青年部会は、ファンションの代表として若いパワーになつっていくことであろう。3月16日からは第2回神戸洋家具フェアが神戸貿易促進センターで開催される。今後の活躍が期待されている。





登り窯の本焼



一つ一つの作業が大きな作品に結びついていく

ユニークな
メンバーが集まる
神戸陶芸俱楽部

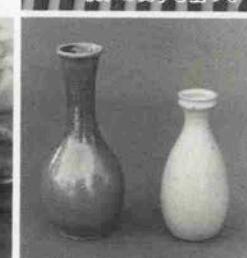
●ある集い



「汎」の文字を使って「すえひろがま」と読む



熱気のこもる雰囲気の中、口クロの音が響く…



作品／中段右より南 汎先生、宮本和子、下段右より服部和夫、肥田 隆、北浦保子、林 青彦、野川健治郎、鳥越功二

**日没まで口クロに
かじりつき**

（神戸陶芸研究所主宰）

昭和四十八年舞子焼末汎窯を母体とした陶芸グループが誕生して今まで多くの会員と陶芸家も生まれ、それぞれ活躍しています。このグループは日曜日組の精銳揃いで、熱が入り燃えてくると、夜八時頃までつかれを知らない口クロのひびきが止まない、粘土が大好きと言う者達で、水曜日金曜日組にも主婦会員が遠くは西宮、揖保郡太子町からも電車バスに乗り継ぎ実習にやってきます。

日曜日組だけで結成した、毎年三月末にギャラリー・北野坂で展示会を開催し日頃の成果を発表する「神戸陶芸俱楽部」の面々は、約三年から九年の間、日曜日定例実習日が祝日でもやってきて、いつの間にか土曜日にまで越境、内一人は会社休日の水曜日にもやつてくる（他に行く所がないのかな？）

日曜日組の神戸陶芸俱楽部会員のユニークさを紹介いたします。

先是各人が自分のねんどをさがしてくることで試し焼の後水簞の上成土造りの作業をする、勿論市販の粘土も使用します。成形の前に制作計画表を提出してもらいお互いに造形について協議をする。

成形後の削り仕上げ、素焼・施釉、全員で本焼窯出し、とプロ同様の工程をこなし、工程前にオリエンテーション又はミーティングを行い登り窯の本焼（土曜日）



精銳揃いの日曜組／前列左から服部和夫、南 汎先生、宮本和子、後列左から野川健治郎、林 青彦、北浦保子、鳥越功二、肥田 隆

終了時が真夜中で女性二人は帰宅し残り全員は宿泊、冬期であっため翌日夕ぐれまでに窯をさましたがら早く自分の作品にお目どおり願いたい気持ち、ふるえる手で作品入口の壁土とレンガを取りのぞくと熱風が頗いっぽいにあたる、しゃべらない粘土の孤独なロクロの時間とはうつて変わつて感動の涙がでできそうな瞬間、歓声、またもや祝盃感激の連続です。

他には窯場周辺に花壇をつくり四季の花が咲き、昨年九月には、第六回展を記念して十二本の山茶花を植えってくれました。空地を利用して南京、西瓜、さつま芋等を栽培、昼の会食には必ず奥さんの手づくりのおにぎり持参の者もいて、約四キロ離れた商店街までおかずの買出しにゆく役目も自然に出来ていて毎回違ったメニューの小パーティがなによりたのしい。食後はコーヒータイムで、飲んだ者は百円以上を瓶に入れることになっています。

陶芸愛好者に窯場を開放し、ここでは職業上不なく地球の皮をめくつての材料で全員の目的が同じと言う粘土と災から靈妙不思議ではかり知れない結果を学び、心豊かに感謝の日々を送ってくれますよう願っています。

● 第7回展 3月28日～4月2日
於／ギャラリー北野坂

■ 神戸陶芸俱楽部
神戸市中央区磯上通5丁目1-17
大和ビル 青建設事務所内
☎ 078-251-4831